

有識者からの発表

「瀬戸内海の環境保全に向けた地区組織活動に関する意見」

財団法人広島県環境保健協会

理事長 近光 章

今後の瀬戸内海の水環境の在り方懇談会資料

【 発表者：財団法人広島県環境保健協会 理事長 近光 章 】

項 目	内 容
1. 発表テーマ	瀬戸内海の水環境保全に向けた地区組織活動に関する意見
2. 課題	<p>(1) 地方自治体の行政改革や住民意識の変化に伴い、「衛生団体の存立の基盤」が脆弱となってきた。</p> <p>(2) 「県—市町村—地区住民」という組織的な活動を行っていない府県がある。また、同じ目的を持つNPO、隣府県との連携が不十分である。</p> <p>(3) 衛生団体はネットワーク組織（地区組織会議）を拠りどころに、40年近くの長きにわたって「水域クリーン運動」や「水質クリーン運動」を展開し、成果をあげてきた。しかし、近年、瀬戸内海の水環境問題に対する住民意識の低下により、一部、環境意識を高めるだけの単発的な行事になっている。</p> <p>(4) 瀬戸内海の水環境の現状や住民団体等による保全活動等について、対外的な情報発信がまだまだ少ない。</p>
3. 対応（提案）	<p>(1) 住民活動継続への支援 県市町村からの住民団体への清掃発注など</p> <p>(2) 各府県の連携活動の強化 もっと府県レベルで具体的な活動のメニューをつくり、住民団体とともに行動</p> <p>(3) (社) 瀬戸内海環境保全協会の主導力の強化</p> <p>① 協会の存在意義＝原点の不断のアピール ② 目に見える「活動ターゲット」の設定 ③ データ、意見、事例等の組織的把握と発信 ④ 県レベルの地区組織団体だけでなく、市町村レベルの組織やNPO法人などを含む「民間公益活動組織」の会員制度を導入し、瀬戸協の組織として民間が公益活動できる部門を創設</p>
4. 今後の瀬戸内海の水環境の方向性について	<p>(1) ひとりの「汚れた瀬戸内海」の危機感は薄れている。しかし、海ゴミ問題や漁獲量の低下、自然海浜の減少など、もっと住民が関心を持って、次の世代に誇れる瀬戸内海を再生し、守り育てていくことが必要である。これらに対応した施策の強力な推進をお願いしたい。</p> <p>① 陸域におけるポイ捨て対策、不法投棄対策、河川の清掃などの運動 ② 干潟保全、藻場増殖活動 ③ 多様性、希少種の保全活動 ④ 後退する砂浜の保全活動 ⑤ 山林の保全活動 ⑥ 里海法（新瀬戸内法）の早期成立</p> <p>(2) 海とふれあうシステムづくり</p> <p>① 「海辺教室」「臨海学校」など、学校教育の中で体験型学習において海とふれる機会を積極的に作っていくべきである。また、地域の大人と子どもが一体となった環境学習ができる制度を作っていただきたい。</p> <p>② 瀬戸内海の水環境問題への国民の関心を高め、楽しむために「瀬戸内海エコツーリズム」に取り組んでいただきたい。</p>

瀬戸内海の環境保全に向けた地区組織活動に関する意見

財団法人広島県環境保健協会

理事長 近光 章

(瀬戸内海環境保全地区組織会議 議長)

1 「瀬戸内海環境保全地区組織会議」発足の経緯

当会議は、瀬戸内海沿岸府県市で多年に亘り地域の環境衛生改善運動を展開している地区衛生組織連合会など衛生団体が、昭和48年7月19日広島市に集まり、結成した。衛生団体は、当時、瀬戸内海環境保全知事・市長会議が採択した瀬戸内海環境保全憲章の趣旨に賛同し、「府県市という枠を乗り越えて協調し、協同活動によって病める瀬戸内海に可能な限り歯止めをかけ、瀬戸内海の環境保全と人間性豊かな生活ゾーンの実現に向け努力する」ことを決議した。

統括組織として当会議をつくり、コミュニティ運動として活動を盛んにする一方、広域陳情団を編成し中央に対し、瀬戸内海環境保全を推進するため、建設的な住民自治活動の発展助長政策をとるよう再三に亘り陳情した。その後、府県市の行政機関を中心に衛生団体や漁協などを一体化した新団体の創設方針が固まり、当会議も代表者を設立発起人に送り出し、昭和51年12月に瀬戸内海環境保全協会を生み出した。その後の当会議は協会方針を地域社会に定着させることを主眼に運動の推進を図っている。

2 構成団体

団体名称	当会議の役割	団体所在地	電話・FAX	代表者氏名
社団法人 大阪エイホーランタリーネットワーク	副議長	〒536-0016 大阪市城東区蒲生2丁目10-28 城東庁舎内	(06)6933-8166 (06)6934-8763	上ノ山 幸子
社団法人 兵庫県保健衛生組織連合会	監事	〒650-8567 神戸市中央区下山手通5丁目10-1 県庁生活衛生課内	(078)341-7711 (078)362-3970	睦谷 博
社団法人 岡山県環境衛生協会	理事	〒700-8570 岡山市北区内山下2-4-6 岡山県循環型社会推進課内	(086)226-7306 (086)224-2271	小山 亮一
財団法人 広島県環境保健協会 *	議長	〒730-8631 広島市中区広瀬北町9-1	(082)293-1512 (082)293-1524	近光 章
社団法人 山口県快適環境づくり連合会	監事	〒753-8501 山口市滝町1-1 県庁生活衛生課内	(083)920-6232 (083)920-6232	赤尾 嘉文
財団法人 福岡県地区衛生連合会	副議長	〒812-0054 福岡市東区馬出4丁目10-1 ナースプラザ福岡内	(092)631-1154 (092)631-1154	繁永 五郎
社団法人 北九州市衛生総連合会	理事	〒803-8501 北九州市小倉北区城内1-1 北九州市環境局業務課内	(093)581-0494 (093)582-2196	番野 宅二

*は事務局所在地

(別紙1) 各団体の事業概要

(別紙2) 地区組織会議と(社)瀬戸内海環境保全協会との関係図

3 平成22年度事業

事業方針

関係府県市衛生団体が相互の連携を深め、瀬戸内海環境保全思想の普及と意識の高揚を図り、地域住民の連帯と協調精神を養い、河川や海など水環境の保全を振興させることを会議の事業推進の基本方針とする。

事業計画

(1) 総会・幹事会の開催 年2回

府県市団体がかかえている問題を持ち寄り、情報を交換し、単位団体の円滑運営に資する。

(2) 広報事業

府県市衛生団体の活動が、政界、官界、マスコミ、その他一般社会から適正な評価を受け、世論の支持のもとに事業活動ができるようPR活動を強化する。

(3) 研修会の開催

府県市段階の団体の組織固めと、第一線組織の強化、リーダー養成活動メニューの作り方などに習熟することを目的とした研修会を適宜開催する。(別紙3) 研修会のあゆみ

(4) 共催事業

社団法人瀬戸内海環境保全協会と共催で、広報事業、研修会の開催を行う。

(5) 顕彰事業

瀬戸内海環境保全に顕著な功績のあった者、団体に感謝状を贈呈する。

4 瀬戸内海の環境保全に果たした役割

(1) 水域クリーン運動(河川・海浜等の美化活動)

(2) 水質クリーン運動(生活排水浄化対策活動)

(3) 水辺教室などの環境学習・啓発活動

(4) 第一線組織の強化、リーダー養成活動メニューの作り方などの情報交換(瀬戸内海の環境保全に関する衛生団体合同研修会)



5 環境衛生団体の課題

(1) 衛生団体の基盤の脆弱性

①行政依存の体質

②地方公共団体の財政悪化に伴う団体補助金等の削減

③平成の大合併等に伴うコミュニティの希薄化(広域化)

④地方公共団体の行政改革、財政悪化に伴う「衛生連合会」の存続の危機

(2) 未組織県が存在

(3) 瀬戸内海の問題に対する住民意識の低下

6 瀬戸内海の水環境保全についての今後のあり方

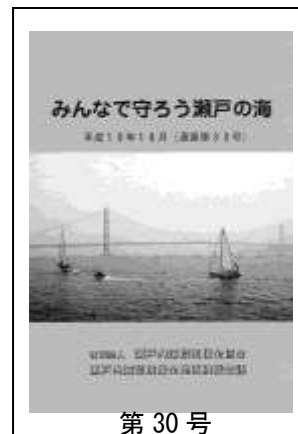
(1) 住民活動の継続への支援

6月の瀬戸内海環境保全月間を中心に、「水域クリーン運動」という、住民による河川や海浜などの清掃美化活動を展開してきた。

活動の様子は、ささやかな冊子に取りまとめて、30年間発行し続けてきた。それぞれの府県市で毎年10万～15万人位の参加があり、沿岸で約100万人を動員している。



創刊号



第30号

加えて、水辺が見た目にきれいになっただけでは十分でなく、水質もクリーンにしなければならないとの思いから、生活排水浄化運動も四半世紀にわたって行ってきた。「水域クリーン運動」と対を成す「水質クリーン運動」である。

当初は、「リンを減らそう、無リン洗剤を使おう」とか「台所から細かいゴミも流さない」などの実践項目を掲げ、草の根を分けた地域学習会の開催や啓発用品の作成・配布を繰り返し、成果をあげてきた。

今後もこうした活動は、地域の衛生団体が旗振り役を続ける限り、継続されていく。その原点は、「美しい海」を求める人情と、地道な「地域ぐるみ活動」を支えるリーダー、そしてリーダーの集まりである地域組織の存在だといえる。したがって、こうした実践的住民組織に対して、物心両面からの支援をぜひお願いしたい。

具体的には、美しい自然の再生をめざした「緑化の推進」「廃棄物の不法投棄防止・処理対策」「漂流物に対する処理ルールの確立」などを内容とした施策を強力に推進していただきたい。なぜなら、このことを契機に住民団体と市民団体が融合して、美しい海を求め続けるコミュニティ活動が活性化するからである。

(2) 海とのふれあいのシステムづくり

「海とのふれあいのシステムづくり」、言い換えれば「瀬戸内海学習の推進」である。

①当会議でも、昭和 59 年ごろから「海辺の教室」や「水辺教室」をプログラム化し、相互にノウハウを交流しながら、体験学習型の普及啓発運動に取り組んできた。

COD などの理化学的指標は、地域住民や低学年の児童にはなじみにくいものだが、水生生物などの指標はわかりやすく、加えて、昔の川や海の様子、例えば「ここで泳いだり、魚を取った」とか「白砂青松（はくしゃせいしょう）のもと、海水浴を隣近所で楽しんだ」などの世代を越えた会話が、地域の水域環境を見直すことにもつながりやすいと実感している。

特に、子どもの自然を大切に思う純粋な心を育む学習が必要である。

子どもは「学社融合」というキーワードで、地域と学校が一体となった環境学習の推進に心を砕いている。それは、必ずしも次の世代の子どもたちを変えればいい、という発想ではなく、むしろ、今、そこに生きている大人に責任がある、という考えが根底にあるべきだからである。

②自然・景観はもとより、豊饒の海の証である新鮮でおいしい魚貝類のいのちをいただくこともふれあいのひとつであり、海の道としての数々の歴史のロマン、地域において生活を営む人々が培ってきた文化など、私たちが次の世代へ伝えるべきものは多いといえる。

こういった視点から、すでに国内各地域でも実践されている「環境教育」としてのエコツアーを、瀬戸内海全域においてできるようにシステムづくりを進めていただきたい。エコツーリズムの実践は、地域に住む人、日本人だけでなく、外国人が瀬戸内海にふれあい、環境意識を高め、生物多様性を保全しながら元気な瀬戸内海の創造につながるものと考え

(3) 「社団法人瀬戸内海環境保全協会」の今後のあり方

①行政（自治体）を中心に、あらゆる「瀬戸内海のステークホルダー」の連合体として協会の存在意義＝原点の不断のアピールを！

②構成員に共通する、目に見える「活動ターゲット」の設定を！

（例示）

- ・ 海上、海浜のゴミを減らそう<きれいな海>
- ・ アサリの漁獲量を〇〇トンに増やそう<豊かな海>
- ・ エコツーリズムの利用客を〇〇万人にしよう<エコの海>
- ・ クリーン運動の参加者〇百万人をめざそう<奉仕の海>

③上記ターゲットの指標化につながるデータや意見、事例等の組織的な把握と発信を！

(別紙1) 瀬戸内海環境保全地区組織会議の構成団体の概要

団体名	組 織	平成 21 年度の主な活動内容
<p>大阪エيوفランタリー ネットワーク(昭和二十九設立)</p>		<ul style="list-style-type: none"> ■健康づくり運動 生活習慣病予防活動、献血推進運動 など ■環境づくり運動 毎月 24 日の「清掃の日」の活動および河川・海岸等の清掃活動、きれいな水を取戻す運動、瀬戸内海の環境保全事業の推進 など ■福祉活動の推進 ■地区衛生組織指導者の育成 指導者研修会、総務・保健予防・生活環境・福祉推進・広報の各部会研究会 など ■各種会議の開催、機関紙「エイフ」の作成・発行
<p>社団法人兵庫県保健衛生組織連合会 (昭和三〇年設立)</p>		<ul style="list-style-type: none"> ■兵庫県保健衛生大会の開催 ■支部活動 環境美化運動の推進、全島一斉清掃(淡路島)、環境保全の実践と生物多様性の普及啓発、管内の不法投棄パトロール など
<p>社団法人岡山県環境衛生協会 (昭和四十二年設立)</p>		<ul style="list-style-type: none"> ■環境衛生に関する知識の普及並びに実践活動の徹底 公共用水域の汚濁防止の推進、ごみの一斉清掃活動、道路・河川などでの一斉清掃 など ■資源循環型社会の形成に向けた実践活動 ごみ減量化・リサイクルの推進、不法投棄防止運動の推進 など ■地区環境衛生組織の育成指導 ■おかやまエコ&フードフェア 2010 の開催(岡山県等と共催) ■民間指導者研修会の開催 ■環境美化等モデル事業の実施(県受託事業) ■協会長表彰(総会で表彰) ■道路、河川等での一斉清掃など ■機関誌「環境のひろば」の発行

団体名	組 織	平成 21 年度の主な活動内容
財団法人広島県環境保健協会 (昭和三十二年設立)		<ul style="list-style-type: none"> ■ 環境づくりに関する全県共通事業の実施 ■ 公衛協・学校・環境協の協働による環境学習（水辺・海辺教室の実施など）、水辺教室指導者養成セミナー等、リーダー養成研修 ■ 地区衛生組織代表者会議の運営 ■ 広島県公衆衛生大会の開催 ■ 行政などからの環境教育受託事業 ■ 脱温暖化センターひろしま【広島県地球温暖化防止活動推進センター】の運営 ■ 関係団体の事務局運営（みやじま未来ミティング（MMM）） ■ 情報紙「環境と健康」の作成・発行
社団法人山口県快適環境づくり連合会 (昭和32年設立)		<ul style="list-style-type: none"> ■ 河川・海岸等清掃活動 ■ 快適な環境づくり山口県大会の開催 ■ 快適な環境づくり研修会の開催 ■ 河川・海岸清掃活動実績集の刊行
財団法人福岡県地区衛生連合会 (昭和四〇年設立)		<ul style="list-style-type: none"> ■ 生活雑排水浄化及び下排水路清掃運動 ■ 河川敷クリーン並びに不法投棄の防止運動 ■ 石けん・洗剤適正使用対策 ■ 会報「えいれんジャーナル」の作成・発行 ■ チラシ等広報紙の作成、配布 河川浄化運動強調月間チラシ、空きかん散乱防止強調月間チラシ、「川や海」絵画コンクール募集チラシ、「川や海」絵画コンクール募集チラシ・入賞ポスター
社団法人北九州市衛生総連合会 (昭和三十八年設立)		<ul style="list-style-type: none"> ■ 河川・海岸等の清掃活動 瀬戸内海環境保全月間中の地域河川海岸清掃 など ■ 指導啓発事業 北九州市環境衛生大会の開催、瀬戸内海環境保全月間の啓発用圧縮タオルの作成配布 など ■ 指導者研修事業 地域衛生組織リーダー研修会「環境を考えるつどい」の開催 など ■ 市民運動 まち美化運動、ごみ減量化資源化運動、健康づくり運動、草刈推進運動 ■ 受託事業の実施（ごみステーション管理） ■ 地区助成事業（地域環境活動等支援補助事業）

(別紙3) 瀬戸内海の環境保全に関する衛生団体合同研修会のあゆみ

回	開催日	参加者数	開催場所	主 な 内 容
1	S48. 7. 18	65	広島県広島市 「みゆき会館」	◎瀬戸内海汚濁状況臨時措置法憲章の解説など
2	S49. 5. 29 ～30	130	広島県呉市 「音戸ロッジ」	◎汚濁状況◎加入団体活動状況・河川・海岸清掃・住民組織の強化・府県市団体の連携強化などの議決
3	S52. 3. 23 ～24	82	広島県広島市 「広島県公衆衛生会館」	◎瀬戸内海協会の概要、内海汚濁状況、防止対策、加入団体活動上の問題討議◎呉市広町の中国工試の瀬戸内海模型実験の見学◎広島県衛連の教育バスによる路上移動教室解説
4	S52. 11. 21 ～22	94	香川県高松市 「高松栗林山荘」	◎瀬戸内海協会の概要・海域汚染の問題点・加入団体活性上の課題研究◎瀬戸内海民族資料館の見学
5	S53. 11. 28 ～29	202	山口県下松市 「笠戸島ハイツ」	◎講演「私たちの海を美しく」宇部短期大学学長 松井魁氏◎全体討議「美しい海と美しい郷土づくり」◎下松地区の歴史的背景・山口県の産業発展と瀬戸内海の変遷について
6	S54. 11. 7 ～8	130	福岡県行橋市 「周防館」	◎基調講演「瀬戸内海のリン削減について」福岡教育大学名誉教授 細川巖氏◎課題研究「水質クリーンと地区組織活動について」◎全体会議
7	S55. 11. 11 ～12	140	岡山県岡山市 「まきび会館」	◎事例研究「瀬戸内海環境美化普及活動のすすめ方と問題点」◎講演「地域の仲間づくり 個を生かす集団づくり」広島大学助教授 片岡徳雄氏◎全体討議
8	S56. 8. 26 ～27	200	兵庫県神戸市 「舞子ビラ」	メインテーマ:クリーン瀬戸内海に果たす住民の役割を探る◎基調講演・NHK 広島放送局アナウンサー 藤木健氏◎事例紹介◎公開座談会
9	S57. 10. 19 ～20	120	大阪府大阪市 「なにわ会館」	◎事例研究「生活排水浄化実践事例」◎特別事例「大阪府四条畷市衛生婦人奉仕会」◎全体討議「地区組織活動としての実践」
10	S58. 7. 7 ～8	100	和歌山県白浜町 「ホテル古賀の井」	◎瀬戸内海環境保全に関する意識調査の結果紹介◎「ふるさとの海辺教室」構想の提出◎映画「みんなで守ろう瀬戸の海」上映・バス学習
11	S59. 10. 23 ～24	120	北九州市小倉北区 「九州厚生年金会館」	◎事例研究「海辺(水辺)教室の開き方・進め方」◎講演「水の保全の指標生物」九州工大教授 加藤安彦氏◎全体討議・体験交流◎8 ミリ映画「堀川を守る人々」上映
12	S60. 9. 18 ～19	150	広島県福山市 「鞆シーサイドホテル」	◎特別講演「海の生物と私たちの生活」広島大学教授 笠原正五郎氏◎研究「瀬戸内海の環境保全対策の進め方」◎模擬海辺教室「ウォークラリーと生物観察」
13	S61. 10. 2 ～3	150	山口県岩国市 「岩国国際観光ホテル」	◎特別講演「川の生物は語る～環境教育への提言」広島大学名誉教授 佐藤月二氏◎研究「環境保全とリーダー」◎模擬水辺教室「錦川のウォークラリーと生物観察」
14	S62. 7. 9 ～10	84	福岡県福岡市 「KKR はかた」	◎基調講演「瀬戸内海環境保全対策～きのう・今日・あした～」九州大学名誉教授 塚原博氏◎研究「水に親しむ住民活動の展開」◎特別講演「博多の郷土史」西日本新聞社客員編集委員 江頭光氏
15	S63. 7. 4 ～5	100	香川県高松市 「讃岐会館」	◎基調講演「環境保全と海域利用」香川大学農学部学部長 岡市友利氏◎実践事例・研究(香川・岡山・兵庫)
16	H1. 11. 16 ～17	100	岡山県岡山市 「岡山郵便貯金会館」	◎基調講演「水環境保全の住民活動に期待するもの」岡山大学資源生物科学研究助教授 八木正一氏◎実践事例・研究(岡山・広島・山口)

回	開催日	参加者数	開催場所	主 な 内 容
17	H2. 11. 1 ～2	150	兵庫県神戸市 「六甲荘」	◎基調講演「瀬戸内海の将来と住民活動」中国工業技術試験所海洋開発部長 塩沢孝之氏◎特別発表「都賀川を守ろう会の活動」◎実践事例・研究（兵庫・山口）
18	H3. 11. 21 ～22	100	大阪府大阪市 「大阪市立労働会館」	◎基調講演「瀬戸内海の将来と住民活動への期待」環境庁水質保全局水質規制課課長補佐 北村匠氏◎特別発表「食用廃油の回収活動」◎実践事例（広島・山口）
19	H4. 11. 16 ～17	100	北九州市 「小倉弥生会館」	◎基調講演「衛生から見た瀬戸内海の現状」九州工業大学情報工学部教授 緒方純俊氏◎特別発表「明るく住みよい街づくりをめざして」◎実践事例研究（北九州市・山口）
20	H5. 8. 23 ～24	120	和歌山県和歌山市 「サンピア和歌山」ほか	（地区組織会議設立 20 周年記念行事） ◎特別講演「自然にやさしい人づくり」法然院住職 梶田真章氏◎実績報告◎視察研修「貴志川町ゲンジボタルを育てる会の活動」
21	H6. 9. 6 ～7	90	広島県広島市 「広島県民文化センター」	◎特別講演「瀬戸内海の水環境保全のあり方～地域からの行動～」広島大学教授 岡田光正氏◎実績報告「環境への負荷の低減をめざして」◎事例報告「アジア大会を目前に！～街きれいひろしま・クリーンキャンペーン～」◎課題研究「エコーノート記帳運動について」
22	H7. 9. 28 ～29	110	山口県山口市 「ホテル松政」	◎基調講演「環境と生物と人間生活のかかわり」岩国短期大学学長 水岡繁登氏◎事例発表◎体験交流「受賞者の報告・各府県市衛連の動き」◎特別報告「阪神大震災と地域活動」
23	H8. 12. 17	344	兵庫県神戸市 「兵庫県公館」	◎（社）瀬戸内海環境保全協会設立 20 周年事業に参加◎環境保全活動事例発表◎記念講演「明日への瀬戸内海への環境デザイン」環境デザイナー 泉真也氏
24	H9. 8. 26 ～27	90	香川県高松市 「香川県厚生年金会館」	◎基調講演「この地球の人として生きるために～自然環境保護と動物園～」財団法人栗林公園動物園園長 香川一水氏◎事例発表「学社融合をテーマに」◎体験交流
25	H10. 11. 4 ～5	90	福岡県福岡市 「レガロ福岡」	◎基調講演「私が見てきた生活の中の環境意識～中国・英国・米国～」一級中国語通訳・翻訳家 青木麗子氏◎事例発表、体験交流
26	H11. 11. 24 ～25	130	岡山県岡山市 「まきび会館」	◎基調講演「地域住民の参加によるゼロ・エミッション社会をめざして」岡山商科大学商学部 岡本輝代志氏◎体験発表◎情報提供「瀬戸内海における新たな環境保全・創造施策のあり方について」
27	H12. 8. 3 ～4	130	大阪府大阪市 「メルパルク OSAKA」	◎事例研究、情報交流◎活動報告◎助言とまとめ講演（あおぞら財団 傘木宏夫氏）
28	H13. 10. 18 ～19	130	北九州市 「八幡ロイヤルホテル」	◎基調講演「瀬戸内海の統括的な環境管理機構（ガバナンス）と住民の役割」独立行政法人産業技術総合研究所 上嶋英機氏◎体験発表＆交流◎視察「ジャパンエキスポ北九州博覧祭 2001」
29	H14. 10. 28 ～29	100	広島県豊田郡 「グリーンピア安浦」	◎基調講演「ファインダーからみた瀬戸内海」写真家 脇山功氏◎事例発表と全体フォーラム◎事例トーク「EM 活性液による地域ぐるみ水質クリーン運動」
30	H15. 10. 23 ～24	98	山口県吉敷郡 「山口グランドホテル」	◎基調講演「やまぐちの豊かな流域づくり構想～榎野川モデルと瀬戸内海環境保全～」山口県環境生活部環境政策課主査 山野元氏◎受賞者座談会「地域活動の活性化の要件を探る」◎合同会議「瀬戸内海環境保全地区組織会議の行方を考える」

回	開催日	参加者数	開催場所	主 な 内 容
31	H16. 10. 6 ～7	128	兵庫県神戸市 「兵庫県民会館」	◎パネルディスカッション「生きてきた瀬戸内海 ～瀬戸内法 30 年～」◎体験交流◎情報提供「閉鎖性海域の環境保全に関する取り組み」
32	H17. 10. 17 ～18	131	香川県高松市 「ウェルシティ高松」	◎基調講演「瀬戸内海をめぐる最近のトピックス～地球温暖化の影響など～」関西学院大学総合政策学部教授 久野武氏◎体験交流・意見交流◎直島環境センター見学ツアー
33	H18. 11. 27 ～28	137	岡山県岡山市 「ピュアリティまきび」	◎基調講演「瀬戸内海の現状と課題」兵庫県健康生活部環境管理局水質課長 富岡寛美氏◎体験交流・意見交流◎ワークショップ「瀬戸内海の環境保全の普及啓発の実践方法について」
34	H19. 11. 8 ～9	88	福岡県福岡市 「博多サンヒルズホテル」	◎基調講演「“里海”づくり～住民参加と環境教育を中心に～」九州大学応用力学研究所 柳哲雄氏◎体験交流・意見交流◎瀬戸内海の環境保全と地球温暖化防止に向けた実践事例◎情報提供
35	H20. 11. 7 ～8	76	大阪府大阪市 「大阪ガーデンパレス」	◎基調講演「海ごみの現状～暮らしのごみが海を汚す～」JEAN/クリーンアップ全国事務局代表 小島あずさ氏◎体験交流・意見交流◎関西空港第2期空港島見学ツアー
36	H21. 8. 3 ～4	118	福岡県北九州市 「門司港ホテル」	◎リレー講演①「洞海湾における環境保全の取り組み」北九州市立大学国際環境工学部准教授 上田直子氏②「ムラサキイガイを使った洞海湾の環境修復活動」北九州市港湾空港局総務経営課水際線係長 田口智康氏◎体験交流・意見交流◎情報提供「北九州市の環境モデル都市について」
37	H22. 9. 6 ～7	70	広島県尾道市 「尾道国際ホテル」	◎講演「中瀬戸地域における環境・まちづくり教育活動」国立広島商船高等専門学校流通情報工学科教授 岐美宗氏◎社団法人瀬戸内海環境保全協会の事業紹介◎体験交流・意見交流◎情報提供「地域を知る・学ぶ・考える～尾道学研究会の取り組み～」尾道学研究会企画事務局 林良司氏◎尾道学フィールドワーク